



チューモくん日記 #余暇・スポーツ ～ブラインドテニス～

秋田県立視覚支援学校オリジナルキャラクターのチューモくんです。

「チューモくん日記」では、本校やその周辺のことについて語っていきます。

今回は、視覚障害者のためのスポーツ「ブラインドテニス」について、愛好者である本校の職員ニムラさん（弱視）に話を聞きました。

チューモくん：先日（2022年10月29日）、秋田県立武道館で、ブラインドテニスの全国大会が行われましたね。

ニムラ：そう、昨年度、初めて秋田で開催して、今回が2回目の大会だったの。

チューモくん：何人くらいが参加したんですか？

ニムラ：県外から13人が来てくれて、参加選手20人くらいの大会になりました。

チューモくん：ところで、ブラインドテニスとは、どんな競技ですか？

ニムラ：ブラインドテニスは、バドミントンで使われる広さのコートを使って、バウンドしたときに音が出るよう工夫されたスポンジボールを、ラケットを使って交互に打ち合うスポーツです。

チューモくん：視覚障害者が行う他の多くの球技は、地面や床でボールを転がして行いますが、空中を飛んでくるボールを打ち返すのは難しくないですか？

ニムラ：全盲は、3バウンドまでに返球、弱視は視力や視野に応じて1バウンドから3バウンドで返球するというルールがあるので大丈夫。

チューモくん：いつ頃から始まったんですか？

ニムラ：埼玉県立特別支援学校塙保己一学園高等部の生徒だった武井視良（たけいみよし）さんが、1984年に考案しました。

チューモくん：秋田では、どれくらいの人が、どこで練習しているのですか？

ニムラ：いつもよく来る人は8人くらい。秋田県心身障害者総合福祉センター（社会福祉会館内）の体育館で練習しています。

チューモくん：どんなところに魅力を感じられますか？

ニムラ：難しいところ。3次元の競技なので、初めは本当に難しいの。だから、ちょっとしたこと、例えば、ラケットにボールが当たった、相手コートに打ち返せたといったことができるだけでうれしいの。そういう、小さな喜びの積み重ねが楽しい。

チューモくん：競技人口が増えていくといいですね。

ニムラ：そうそう。この前は、山形でやってみたいという話があって、山形まで教えに行ってきたの。

チューモくん：この先が楽しみですね。ますますのご活躍を期待しています。頑張ってください。